

## フランス国家人権諮問委員会

### 「人権に関する企業責任1. 新たな論点、新たな役割」

#### 序論

#### 第1章 新たな企業責任への呼びかけ

##### グローバル化時代における変容と新たな論点

フォード的妥協社会：第二次世界大戦後から1970年代まで

消費社会の出現：1970年代から1990年代

経済のグローバル化と金融化へ向けて：1990年代から今日まで

##### 持続可能な発展概念

概念の発生と初期の輪郭

あいまいなコンセンサスに向けた20年：1972-1992

議論多き収奪

##### CSRの取り組み

CSRの起源

CSRの略号と初期の定義

企業責任の文化的読解

#### 第2章 経済秩序と政治秩序：責任の容貌

##### CSR：個人的行為の問題か社会的アクターの問題か

ステークホルダー理論

この理論の概念的限界と政治的論点

##### 4つのCSRモデル

株主第一モデル

ステークホルダー意思モデル

CSRによる民主的規制モデル

連帯防衛と（世界的）公共財産防衛モデル

## CSRの限界

CSRへの競争と新立憲主義の影響

人権プロジェクトに適合した経済諸関係に向けて

## 第3章 人権と経済アクター

### 経済と人権が会うとき

人権、哲学的政治的プロジェクト

国際人権法

経済的、社会的及び文化的権利

人権と持続可能な発展とCSRの関係

### 人権に関する企業責任の国際規範枠組

多国籍企業に対するOECD指導原則

ILOの活動

グローバルコンパクト

国連の活動

上記機関における人権のテーマ別原則

## 第4章 企業責任の土台としての人権

### ハードロー・ソフトローの二元論を超えて

国際法的枠組みに関する一般的考察

自主的規制メカニズムの利点と限界

新たな形の法多元主義

### 有効に組み立てられた規制に向けた国家の役割

国際規範枠組み発展の可能性

企業責任の土台としての人権

### 個人および研究者への2つの論点

自主的規制メカニズムへの信頼を高める

グローバル責任という神話の放棄

## 結論にかえて